

## 【参 考】

### ●ジャイアントパンダ（食肉目 クマ科）

（ワシントン条約附属書 I、IUCN レッドリスト：VU（絶滅危惧Ⅱ類）、東京都ズーストック種）

学 名 *Ailuropoda melanoleuca*

英 名 Giant panda

分 布 中国南西部（四川省、陝西省、甘肅省）の標高 2600～3500m の寒冷湿潤な竹林

生態等 基本的には単独行動で行動圏 5～15km<sup>2</sup>、昼夜の別なく行動するが明け方と夕方が活発です。

### ●ジャイアントパンダの繁殖などに関する一般的傾向について

1. 性成熟：性成熟はオスで 6.5～7.5 歳、メスで 3.5～4.5 歳。
2. 繁殖期：繁殖期は一般的に 2～5 月。秋に発情するケースもある。繁殖期には、行動量の増加、においつけ、水浴びによる体冷やしの増加、食欲減退、恋鳴きなどが見られる。発情期間は 2 週間ほどであるが、そのうち受精できるのは数日間だけある。
3. 妊娠期間：交配後、83～200 日の妊娠期間を経て出産する。妊娠期間は個体差がある。これは、着床遅延（※）があるためで、受精してから着床するまでの時間が 1 日のものもあれば数週間かかるものもある。着床までの時間によって妊娠期間が変わる。
4. 妊娠時に認められる変化
  - ①食欲の変化：出産の 30 日前頃から食欲が減退し、エサを残すようになる。出産間際には食欲が廃絶する。
  - ②行動の変化：食欲の減退に伴い休息時間が増加する。  
出産の 15 日前頃から巣づくり行動が認められる。出産間際には行動が不活発になる。
  - ③体の変化：出産の 30 日前頃に乳頭が確認されるようになる。出産間際には陰部の腫脹、乳房の腫脹が認められる。
  - ④ホルモンの変化：出産前の 3.7 週～8 週に尿中のプレグナンジオール（妊娠の維持に必要な黄体ホルモンが代謝された物質）値の上昇が認められる。出産間際にはこの数値が下がる。  
（血液で検査した場合には、プロゲステロン（妊娠の維持に必要な黄体ホルモン）値が上昇する）
5. 妊娠の確認：妊娠時に認められる変化により推測するが、偽妊娠（※※）という生理現象がみられるため、確定診断は難しい。

#### <用語の説明>

#### ※着床遅延（ちゃくしょうちえん）

受精卵がすぐに子宮内膜に着床せず、胚盤胞の状態ですばらくの間子宮内に浮遊し、それから着床・発育を始める現象。温・寒帯に分布するクマ類やイタチ類、鱧脚類、カンガルーなどに認められている。着床までの時間によって妊娠期間が変わる。

#### ※※偽妊娠（ぎにんしん）

偽妊娠は病気ではなく生理現象の一種である。排卵すると、受精しなくても妊娠と同じ経過をたどることが知られている。発情の後、妊娠しなくても、尿中ホルモン値の上昇、動作の不活発、長い休息時間、食欲不振、乳頭の明瞭化、乳房の腫脹、巣作り行動など妊娠した場合と同様の現象が現れる。これを偽妊娠と呼ぶ。出産することがないまま日数が経過し、上記の変化が認められなくなって終息する。

#### <参考文献>

张志和・魏辅文著『大熊猫 迁地保护 理论与实践』（ジャイアントパンダ 域外保全 理論と実践）、科学出版社（中国）、2006年

東京都恩賜上野動物園編「ジャイアントパンダの飼育 上野動物園における20年の記録」、東京動物園協会、1995年